

アシスタントマネージャー		
	度数	パーセント
あてはまらない	95	99.0
あてはまる	1	1.0
合計	96	100.0

クラブマネージャー		
	度数	パーセント
あてはまらない	96	100.0

障害者スポーツ指導員		
	度数	パーセント
あてはまらない	94	97.9
あてはまる	2	2.1
合計	96	100.0

障害者スポーツリーダー		
	度数	パーセント
あてはまらない	95	99.0
あてはまる	1	1.0
合計	96	100.0

その他		
	度数	パーセント
あてはまらない	75	78.1
あてはまる	21	21.9
合計	96	100.0

現在のスポーツ活動内容について（仕事でかかわっている場合も含む）
 現在、どのような場でスポーツ指導を行っておられますか。（複数回答可）

1. 地域スポーツクラブに属している
2. サークルに属している
3. 仕事の関係で活動している
4. その他

地域スポーツクラブに属している		
	度数	パーセント
あてはまらない	49	51.0
あてはまる	47	49.0
合計	96	100.0

サークルに属している		
	度数	パーセント
あてはまらない	69	71.9
あてはまる	27	28.1
合計	96	100.0

仕事の関係で活動している		
	度数	パーセント
あてはまらない	86	89.6
あてはまる	10	10.4
合計	96	100.0

その他		
	度数	パーセント
あてはまらない	68	70.8
あてはまる	28	29.2
合計	96	100.0

障害者スポーツに関する講習会や講演会の参加経験について
(最も近いもの1つだけ選んでください)

1. 研修や講習会に参加したことがある
2. 講演に参加したことがある
3. ない

障害者スポーツに関する講習会や講演会の参加経験について

	度数	パーセント
研修や講演会に参加したことがある	17	17.7
講演に参加したことがある	9	9.4
ない	69	71.9
合計	95	99.0
システム欠損値	1	1.0
	96	100.0

II. あなたと障害者スポーツの関わりについて、該当する項目の数字全てを○で囲んでください。

1. 障害者スポーツに関わる報道や情報をよく見る。
2. 実際に障害のある人が競技スポーツや健康づくりのスポーツに参加している様子を見たことがある。
3. 地域で障害者スポーツの指導を実践している知り合いがいる。
4. 神戸マラソンなど障害のある参加者を含むスポーツイベントで、ボランティアをしたことがある。
5. 実際に障害者のスポーツ指導を経験したことがある。
(アシスタント・ボランティアを含む)。
6. まだ興味や関心が低いのでわからない。

障害者スポーツに関わる報道や情報をよく見る

	度数	パーセント
あてはまらない	60	62.5
あてはまる	36	37.5
合計	96	100.0

実際に障害のある人が競技スポーツや健康づくりのスポーツに参加している様子を見たことがある

	度数	パーセント
あてはまらない	53	55.2
あてはまる	43	44.8
合計	96	100.0

地域で障害者スポーツの指導を実践している知り合いがいる

	度数	パーセント
あてはまらない	83	86.5
あてはまる	13	13.5
合計	96	100.0

神戸マラソンなど障害のある参加者を含むスポーツイベントで、ボランティアをしたことがある

	度数	パーセント
あてはまらない	50	52.1
あてはまる	46	47.9
合計	96	100.0

実際に障害者のスポーツ指導を経験したことがある
(アシスタント・ボランティアを含む)

	度数	パーセント
あてはまらない	79	82.3
あてはまる	17	17.7
合計	96	100.0

まだ興味や関心が低いのでわからない

	度数	パーセント
あてはまらない	77	80.2
あてはまる	19	19.8
合計	96	100.0

Ⅲ. 障害者のスポーツについて、どのような考えを持っていますか。各項目の程度について、あてはまる数字を○で囲んでください。

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない
5. まったくそう思わない

1	身体障害者は動きに制限があり、運動やスポーツもかなり制限される	1	2	3	4	5
2	障害者にスポーツをやらせるのは気の毒だ	1	2	3	4	5
3	障害者スポーツは一部の優れた能力を持った人がやることだ	1	2	3	4	5
4	身体障害者がスポーツや運動をすることは危険を伴う	1	2	3	4	5
5	障害者の中には突然大声を出したり、急に動いたりする人がいて、どう対応してよいか分からない	1	2	3	4	5
6	障害者の発育・発達の可能性は小さい	1	2	3	4	5
7	知的障害者が運動の仕方やルールを理解できないのではないかと思います	1	2	3	4	5
8	知的障害者がスポーツを楽しむことは難しいのではないかと思います	1	2	3	4	5
9	障害者スポーツは特別なスポーツである。	1	2	3	4	5
10	障害者スポーツは、車イスを利用する人の競技スポーツが中心である	1	2	3	4	5
11	障害のない人のスポーツと比べて、障害者スポーツでは技術がそれほど必要ない	1	2	3	4	5
12	障害者スポーツは障害者がやるもので、障害者のためだけに実施するスポーツである	1	2	3	4	5
13	障害者のスポーツ・運動指導には不安を感じている	1	2	3	4	5
14	障害者のスポーツ・運動指導はできれば避けたい	1	2	3	4	5
15	障害者のスポーツ・運動を指導するには特別な能力が必要である	1	2	3	4	5
16	障害者のスポーツ・運動指導は難しい	1	2	3	4	5

記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
身体障害者は動きに制限があり、運動やスポーツもかなり制限される	95	1	5	2.61	1.13
障害者にスポーツをやらせるのは気の毒だ	96	1	5	4.39	0.88
障害者スポーツは一部の優れた能力を持った人がやることだ	96	1	5	4.39	0.84
身体障害者がスポーツや運動をすることは危険を伴う	95	1	5	3.00	1.03
障害者の中には突然大声を出したり、急に動いたりする人がいて、どう対応してよいか分からない	95	1	5	2.79	0.96
障害者の発育・発達の可能性は小さい	92	1	5	3.95	0.88
知的障害者が運動の仕方やルールを理解できないのではないかと思う	96	1	5	3.43	0.99
知的障害者がスポーツを楽しむことは難しいのではないかと思う	96	2	5	4.02	0.86
障害者スポーツは特別なスポーツである	93	1	5	3.66	1.09
障害者スポーツは、車イスを利用する人の競技スポーツが中心である	94	2	5	4.13	0.85
障害のない人のスポーツと比べて、障害者スポーツでは技術がそれほど必要ない	96	1	5	4.38	0.78
障害者スポーツは障害者がやるもので、障害者のためだけに実施するスポーツである	95	1	5	3.95	0.97
障害者のスポーツ・運動指導には不安を感じている	96	1	5	2.85	1.02
障害者のスポーツ・運動指導はできれば避けたい	95	2	5	3.47	0.93
障害者のスポーツ・運動を指導するには特別な能力が必要である	96	1	5	2.73	1.00
障害者のスポーツ・運動指導は難しい	96	1	5	2.61	0.94

IV. 障害者にスポーツ指導をしなくてはならなくなったときに、不安を感じる点について、該当する項目の数字全てを○で囲んでください。

1. たおれたり怪我をしったりなどの緊急時の対処方法
2. 障害者にとっての安全な環境づくり
3. 突然大声を出したり、パニックを起こしたりした場合の対処
4. 運動量に対する配慮
5. 保険や補償の問題
6. 障害者に対する接し方（コミュニケーション方法）
7. 障害の状況に応じた配慮
8. 教室やサークルに参加している障害のないメンバーの理解
9. 介助方法
10. 車イスや義足などの補装具の扱い方
11. スポーツの技術面の指導方法
12. 障害者のための競技スポーツのルール
13. 障害者スポーツのクラス分けなど独自のシステム
14. 障害者の競技スポーツに必要な技術や戦術
15. 大会出場のための手続きなど
16. 特に不安は感じない

たおれたり怪我をしったりなどの緊急時の対処方法

	度数	パーセント
あてはまらない	30	31.3
あてはまる	66	68.8
合計	96	100.0

障害者にとっての安全な環境づくり

	度数	パーセント
あてはまらない	52	54.2
あてはまる	44	45.8
合計	96	100.0

突然大声を出したり、パニックを起こしたりした場合の対処

	度数	パーセント
あてはまらない	36	37.5
あてはまる	60	62.5
合計	96	100.0

運動量に対する配慮

	度数	パーセント
あてはまらない	61	63.5
あてはまる	35	36.5
合計	96	100.0

保険や補償の問題

	度数	パーセント
あてはまらない	64	66.7
あてはまる	32	33.3
合計	96	100.0

障害者に対する接し方（コミュニケーション方法）

	度数	パーセント
あてはまらない	44	45.8
あてはまる	52	54.2
合計	96	100.0

障害の状況に応じた配慮

	度数	パーセント
あてはまらない	37	38.5
あてはまる	59	61.5
合計	96	100.0

教室やサークルに参加している障害のないメンバーの理解

	度数	パーセント
あてはまらない	78	81.3
あてはまる	18	18.8
合計	96	100.0

介助方法		
	度数	パーセント
あてはまらない	49	51.0
あてはまる	47	49.0
合計	96	100.0

車イスや義足などの補装具の扱い方

	度数	パーセント
あてはまらない	42	43.8
あてはまる	54	56.3
合計	96	100.0

スポーツの技術面の指導方法

	度数	パーセント
あてはまらない	57	59.4
あてはまる	39	40.6
合計	96	100.0

障害者のための競技スポーツのルール

	度数	パーセント
あてはまらない	58	60.4
あてはまる	38	39.6
合計	96	100.0

障害者スポーツのクラス分けなど独自のシステム

	度数	パーセント
あてはまらない	76	79.2
あてはまる	20	20.8
合計	96	100.0

障害者の競技スポーツに必要な技術や戦術

	度数	パーセント
あてはまらない	63	65.6
あてはまる	33	34.4
合計	96	100.0

大会出場のための手続きなど

	度数	パーセント
あてはまらない	82	85.4
あてはまる	14	14.6
合計	96	100.0

特に不安は感じない

	度数	パーセント
あてはまらない	95	99.0
あてはまる	1	1.0
合計	96	100.0

V. どのような条件がクリアできれば、地域において障害者がスポーツを行えるようになると思いますか。当てはまる項目を3つ選んで○で囲んでください。

1. 既存の身近なスポーツ施設のバリア・フリー化を推進する
2. 障害者優先スポーツ施設（しあわせの村、こうべ市民福祉交流センターなど）を整備する
3. 神戸市総合型地域スポーツクラブへのバリア・フリー・プログラムの設置を推進する
4. 養護学校や障害者施設と連携する
5. 障害者スポーツ振興のための組織づくりを促進する
6. 障害者スポーツ指導員等の養成・育成を行う
7. 障害者スポーツを支えるボランティアを養成する
8. 障害者スポーツ競技団体への支援を行う（施設の優先利用・選手派遣費用など）
9. 障害者スポーツ大会等を観覧・参加できる機会を増やす
10. 障害者スポーツのテレビ中継などの情報を充実させる
11. 障害者スポーツについて学ぶ機会を提供する
12. わかりやすいマニュアルやプログラムを身近に活用できる

既存の身近なスポーツ施設のバリア・フリー化を推進する

	度数	パーセント
あてはまらない	62	64.6
あてはまる	34	35.4
合計	96	100.0

障害者優先スポーツ施設（しあわせの村、こうべ市民福祉交流センターなど）を整備する

	度数	パーセント
あてはまらない	70	72.9
あてはまる	26	27.1
合計	96	100.0

神戸市総合型地域スポーツクラブへのバリア・フリー・プログラムの設置を推進する

	度数	パーセント
あてはまらない	79	82.3
あてはまる	17	17.7
合計	96	100.0

養護学校や障害者施設と連携する

	度数	パーセント
あてはまらない	56	58.3
あてはまる	40	41.7
合計	96	100.0

障害者スポーツ振興のための組織づくりを促進する

	度数	パーセント
あてはまらない	70	72.9
あてはまる	26	27.1
合計	96	100.0

障害者スポーツ指導員等の養成・育成を行う

	度数	パーセント
あてはまらない	49	51.0
あてはまる	47	49.0
合計	96	100.0

障害者スポーツを支えるボランティアを養成する

	度数	パーセント
あてはまらない	64	66.7
あてはまる	32	33.3
合計	96	100.0

障害者スポーツ競技団体への支援を行う（施設の優先利用・選手派遣費用など）

	度数	パーセント
あてはまらない	86	89.6
あてはまる	10	10.4
合計	96	100.0

障害者スポーツ大会等を観覧・参加できる機会を増やす

	度数	パーセント
あてはまらない	77	80.2
あてはまる	19	19.8
合計	96	100.0

障害者スポーツのテレビ中継などの情報を充実させる

	度数	パーセント
あてはまらない	82	85.4
あてはまる	14	14.6
合計	96	100.0

障害者スポーツについて学ぶ機会を提供する

	度数	パーセント
あてはまらない	64	66.7
あてはまる	32	33.3
合計	96	100.0

わかりやすいマニュアルやプログラムを身近に活用できる

	度数	パーセント
あてはまらない	91	94.8
あてはまる	5	5.2
合計	96	100.0

VI. 障害者の指導のために受講した方が良いと思う研修等の内容について、当てはまる項目を3つ選んで○で囲んでください。

1. 緊急時の対処方法
2. 突然大声を出したり、急に動いたりする等の行動に対する対処方法
3. 安全な環境づくり
4. ヒヤリ・ハットの事例と改善方法
5. 障害者のスポーツ指導方法（技術指導など）
6. 障害者のための競技ルール
7. 障害者スポーツのクラス分けなど独自のシステム
8. 障害者のスポーツ大会について
9. 障害者に対する接し方
10. 障害について
11. 介助方法
12. 車イスや義足などの扱い方
13. 障害者のスポーツ指導の見学
14. 障害者スポーツの体験
15. 障害のある当事者との交流
16. 障害者スポーツの理念考え方
17. 障害者スポーツに関わる組織

緊急時の対処方法

	度数	パーセント
あてはまらない	46	47.9
あてはまる	50	52.1
合計	96	100.0

突然大声を出したり、急に動いたりする等の行動に対する対処方法

	度数	パーセント
あてはまらない	70	72.9
あてはまる	26	27.1
合計	96	100.0

安全な環境づくり

	度数	パーセント
あてはまらない	82	85.4
あてはまる	14	14.6
合計	96	100.0

ヒヤリ・ハットの事例と改善方法

	度数	パーセント
あてはまらない	81	84.4
あてはまる	15	15.6
合計	96	100.0

障害者のスポーツ指導方法（技術指導など）

	度数	パーセント
あてはまらない	53	55.2
あてはまる	43	44.8
合計	96	100.0

障害者のための競技ルール

	度数	パーセント
あてはまらない	82	85.4
あてはまる	14	14.6
合計	96	100.0

障害者スポーツのクラス分けなど独自のシステム

	度数	パーセント
あてはまらない	90	93.8
あてはまる	6	6.3
合計	96	100.0

障害者のスポーツ大会について

	度数	パーセント
あてはまらない	90	93.8
あてはまる	6	6.3
合計	96	100.0

障害者に対する接し方

	度数	パーセント
あてはまらない	62	64.6
あてはまる	34	35.4
合計	96	100.0

障害について

	度数	パーセント
あてはまらない	89	92.7
あてはまる	7	7.3
合計	96	100.0

介助方法

	度数	パーセント
あてはまらない	81	84.4
あてはまる	15	15.6
合計	96	100.0

車イスや義足などの扱い方

	度数	パーセント
あてはまらない	87	90.6
あてはまる	9	9.4
合計	96	100.0

障害者のスポーツ指導の見学

	度数	パーセント
あてはまらない	71	74.0
あてはまる	25	26.0
合計	96	100.0

障害者スポーツの体験

	度数	パーセント
あてはまらない	81	84.4
あてはまる	15	15.6
合計	96	100.0

障害のある当事者との交流

	度数	パーセント
あてはまらない	81	84.4
あてはまる	15	15.6
合計	96	100.0

障害者スポーツの理念考え方

	度数	パーセント
あてはまらない	83	86.5
あてはまる	13	13.5
合計	96	100.0

障害者スポーツに関わる組織

	度数	パーセント
あてはまらない	89	92.7
あてはまる	7	7.3
合計	96	100.0

Ⅶ. 日本障害者スポーツ協会認定障害者スポーツ指導者資格および養成講座の存在について、当てはまる項目を1つ選んで○で囲んでください。

1. 資格は知らないし、神戸市で養成していることも知らない。
2. 資格は知っているが、神戸市で養成していることは知らない
3. 資格も神戸市で養成していることも知っている

日本障害者スポーツ協会認定障害者スポーツ指導者資格および養成講座の存在について

	度数	パーセント
資格は知らないし、神戸市で養成していることも知らない	66	68.8
資格は知っているが、神戸市で養成していることは知らない	21	21.9
資格のことも神戸市で養成していることも知っている	9	9.4
合計	96	100.0

Ⅷ. 神戸市における初級障害者スポーツ指導員養成講習について、当てはまる項目を1つ選んで○で囲んでください。

1. 受講する意思がない
2. 平成26年度の養成で受講しようと思う
3. 神戸市以外の養成講座でも日程が合えば受講しようと思う
4. 都合がつけばいつか養成講座を受講しようと思う
4. すでに養成講座を受講（あるいは、障害者スポーツ指導者資格を現在取得）している
－2年未満
5. すでに養成講座を受講（あるいは、障害者スポーツ指導者資格を現在取得）している
－2年以上

神戸市における初級障害者スポーツ指導員養成講習について

	度数	パーセント
受講する意思がない	25	26.0
平成26年度の養成で受講しようと思う	6	6.3
神戸市以外の養成課程でも日程が合えば受講しようと思う	3	3.1
都合がつけばいつか養成講座を受講しようと思う	55	57.3
すでに養成講座を受講している－2年未満	1	1.0
すでに養成講座を受講している－2年以上	3	3.1
合計	93	96.9
システム欠損値	3	3.1
	96	100.0

IX. その他、障害者が地域でスポーツ活動を行うために、重要だと思う内容等、神戸市の障害者のスポーツについてご意見・ご希望などがありましたら、自由にご記入ください。

H. 18年度の国体の時、車イス、盲目の方への接し方の（介助）講習会に参加いたしましたが、本当に難しいと思いました。その後スポーツ大会にボランティアとして参加しましたが、満足な活動もできずに1日が終わったと思いました。介助と経験の講習会はぜひ必要だと感じます。これから若い方々が大いに参加できるような機会を作っていけたらいいと思います。

障害者にスポーツを広める、指導する事は大切と思いますが、障害者の方の中で、スポーツをしたい、楽しみたいと思う方が、どれだけいるのか、増やせるのかが、ポイント！そういう方が増えたら、環境も変わるし、指導者も、レベルアップすると思います。

このアンケートを取る意味がまったく理解出来ません。健常者以上に千差万別の状況をこの程度のアンケートで何を求めておられるのですか？本音を出して答えを求めてはいかがですか？アンケートをしたと云う結果を残すことだけが目的のアンケートに答えるのがばからしくなりました。構成メンバーも実際に関わっている、リーダーが、何人入っておられるんですか？机上でどんな答えを求めていくのですか？御返答をお待ち致します。よろしく願います。

特殊な義足や車イスでなくても日常的にスポーツを楽しめるように地域での指導者の育成が進めばよいなと思います。

障害者スポーツ全て初歩より知りません。初歩がどこから始めてよいのかも知り得ません。初歩から取組める講習でもあれば時間のゆるす限り参加したいと思います。

スポーツ推進員としてだけではなく、色々な組織に属してお手伝いさせていただいていますが、それぞれ個々に大会やイベントを開いています。組織やお金の出所が違うからしかたがないとは思いますがひとつになって活動すればもっと充実した大会ができるのに…と思うことはよくあります。色々なイベントがたくさんあって参加するイベントが増えるのはいいですが参加する方は「この前もあったし…」と参加者を集めるのが大変な場合もあります。

私は卓球の指導をしています。その中に、耳のきこえない方も入っていて、始めは、ついつい大きな声で言ってあげていたのですが、そうではなく、正面から口を、はっきり言ってあげますと、口びるをよみ、わかって下さいました。区別をするのではなく、障害によって、指導員をまなんでいけばと思います。

オリンピックが終わり、パラリンピックが始まりますが、TVでも放映が少なく、話題でも、あまり身近に感じません。兵庫国体ではボランティアの経験がありますが、それ以来、見る機会もなく、情報もなく、知らない状況です。神戸市内でのイベントなど機会があればお手伝い出来ればと思っています。

甘い考えかもしれませんが障害者も健常者も同じ場所で一緒に活動出来ればと思います。私自身高令化をひしひしと感じると要介護者と障害者はリンクしてきます。灘区民運動会を毎年催しますが参加者が年々高令化。でも幼児から80代までの参加で楽しく行っています。20年前位からラジオ体操をみんなの体操にかえて、椅子に

座った方も参加して頂けるようにしていますが、車椅子の種目を設ける事はまだ出来ていません
障害者スポーツに対する認知度が低く、パラリンピックでさえ、まともにニュースでとりあげられません。日本は特に障害者に対して厳しい国と言われています。もっとメディアにとりあげてもらいたいと思います。
スポーツの内容にもよりますがバリア・フリーの充実。
障害者スポーツに関する情報が少ないため、一般市民がどこまで知っているのか疑問を感じる。住民をまき込むからこそ活発になるのでは、ないでしょうか。例えば、小学生・中学生と一緒に障害スポーツで交流するなど工夫は、いくらでも出来ると思う。そのようなところから、ボランティア活動につながるのでは？と思います。
障害者スポーツについての広報を、多くしていただきたい！！
勝敗を重視するスポーツのみの考えは疑問です。
障害者と接する機会がないので、不安に思う。少しでも多くの機会を作るのが大切と思う。
障害者本人が障害者スポーツをしらない人が多い。しらせる方法を考える。・地域にもゆうせんの的に利用出来る様にする。
障害のある人に対して、スポーツ指導員がいる、あるいは参加可能なサークル等の情報を提供すること。障害者スポーツのために使用できる施設等を優先的に利用できるようにすること。
神戸市スポーツ推進委員会として障害者スポーツ大会を企画・運営をし、障害者との相互理解が必要だと考えています。当方としては大会の企画・運営はできると思うのですが、障害の程度による大会内容・募集広報の仕方を御相談したいと思います。ですが、障害者への対応について学ぶ機会も同時に必要だと感じます。
健常者でもスポーツが苦手な人もいるので、まず意志の確認が大切だと思います。自らやってみたいと思う種目選びが一番。
身体、精神的にハンディキャップがある方々のスポーツ援助は大変だと思います。しかし、人間である限り、スポーツ・レクリエーションの欲求を阻害することはできないと思います。バリアフリー施設などハード面、人材やルールづくりなどのソフト面の充実、そして、支援組織の充実などの環境的側面が必要でしょう。しかし、我々健常者のみ指導してきた者にとっては障害者に対する知識や指導法が全く分からないのが現状です。学習の機会を増やしていくことが課題ではないでしょうか。
とにかく素人ではむずかしい気がして…。対象者にもいろんなケースがあり個々でも違いがあります。講習を受けたからといってうまく対応できるかはどうかと…
障害とひとことで言っても、その様態はさまざまなので、個々の障害に合わせたスポーツ活動や指導は、難しいのが現状ではないかと思います。障害を持つ方も、広くスポーツに親しむ場ができるようになればと思います。

どうしても、ヘンケンのような気持ちが生じます。例えば、注意する時、こんな言い方をすれば、傷をつくのど、ちがうか？…。あたりまえの事が、あたりまえに出来るかどうか…。◎スポーツで、皆んなと、楽しく、アセを流したり、競技のおもしろさも体験してもらいたいナア…。※私は、〇〇町で、スポーツ推進委員を中心に、スポーツ、レクリエーション協会で、活動しています。（行政も認めていただいている組織です。）モットーは、明るく、楽しく、一歩前という合言葉です。今年度のモットーは、一歩前へ「後の半歩は…？」障害者の方の、勉強をしようということなんです。

スポーツ推進委員を対象とした調査

本調査研究では、神戸市のスポーツ推進委員が、障害者や障害者スポーツに対してどのような意識を持っているのか、また、どのような点に不安を持ち、どのような知識や技術を身につけたいと考えているかを明らかにすることを目的とした。

対象：神戸市内のスポーツ推進委員 186名

回答 93名 回答率 50%

- 調査票は、藤田（2013）の「（公財）日本体育協会スポーツ資格所有者の障害者スポーツに対する意識に関する研究」を参考にした。
- スポーツ関係の資格については、障害者スポーツ関係の資格を持つ人が4名程度存在した。
- 活動場所は、総合型地域スポーツクラブが約半数である。
- 7割は、障害者スポーツの研修会や講演会への参加がない。
- 障害者スポーツとのかかわりについては、「まだ興味や関心が低い」人が2割程度、障害者スポーツの様子を見たことがある人が45%程度である。実践者とのコンタクトがある人は14%、アシスタントを含む指導経験者は18%、インクルーシブなイベントのボランティアは50%近くが経験をしている。障害のある人との接点や、スポーツ推進委員自身が障害者スポーツを経験する機会をコーディネートする必要性が高い。
- 障害者スポーツについての考えでは、競技スポーツのみならず、日常的なスポーツについてもおおむね肯定的ではあるが、実際の指導等には不安を感じている。
- 具体的な項目は、緊急時の対処法、パニックへの対処、障害への配慮、コミュニケーション等である。これら項目は、障害者スポーツを指導する際の技術的な内容よりも高かった。
- 地域において障害者がスポーツを行えるようになるかについては、養護学校や障害者施設との連携や、地域において障害者スポーツ指導者の養成を行うとの意見が多かった。
- 研修内容については、緊急時対応を含むリスクマネジメントに対する要望が高い。
- 日本障害者スポーツ協会認定の障害者スポーツ指導者資格については、資格および神戸市内で研修を開催していることを知っている人は、10%に満たなかった。認知のツールとしては、本アンケートが有効であったとも考えられる。

- 障害者スポーツ指導者資格については、すでに講座を受講した人を除いて、半数以上が「都合があれば受講する」としている。また、平成 26 年度での受講希望者は 6 名 6.3%であった。受講意思がないとする回答者の存在が、26%あったことから、第 1 段階として、スポーツ推進委員を対象とした障害者スポーツに触れる機会を設けるような方略が好ましいと考える。
- 自由記述から見て、障害者のみでスポーツを行うよりも、障害の有無をこえた取り組みが好ましいとする意見が多い。インクルーシブな地域スポーツの展開が求められている。

研究内容

②先駆的事例ヒヤリング総合型地域スポーツクラブ

① 趣旨

本検討会において、地域における障害者スポーツの担い手とその活動のあり方を座くるうえで、すでに地域のスポーツ振興を担うしくみとして機能している「総合型地域スポーツクラブ」に着目し、障害者の参加状況など、現状を把握し、課題と課題解決への方策を見出していくため、アンケート調査を実施している。

しかし、総合型地域スポーツクラブのなかに、すでに先駆的に障害者の参加等に取り組んでいるクラブがあることは、所管課が日常業務のなかで統計的にはないが、情報として把握していた。

これらのクラブの取り組みは、それぞれに背景や活動の形が全く異なるので、一律の質問事項を行うアンケートのみでは状況の詳細がつかめないことが考えられる。

このため、特徴的なケースのヒヤリングをアンケートと並行して実施し、総合型地域スポーツクラブにおける実践例を調査し、障害者スポーツのあり方の具体像を見出すこととした。

② 調査手法

ア 総合型地域スポーツクラブ所管課から先駆的な活動を行う総合型地域スポーツクラブもしくは傘下のグループに連絡し、調査に了承を得て実施。

イ 原則として、活動の場である小学校のクラブハウスなど、地域で行う。

これは周辺地域の状況や活動の環境等を把握、分析するために必要。

ウ ヒヤリング手法

別添「総合型地域スポーツクラブヒヤリング調査実施マニュアル」による。

③ 実施状況

● N 総合型地域スポーツクラブ

ア 日 時 平成 26 年 2 月 24 日（月）10：00～11：30

イ 場 所 N 小学校

総合型地域スポーツクラブクラブハウス

ウ 調査員 金山座長・調査部会／荒川、赤木、片岡、山崎

エ 対 応 クラブ会長・風船バレー担当者

オ 概 要 風船バレーボールチームにダウン症児参加

放課後のびのび広場授業という事業のなかで、風船バレーを導入。

今は利用者が増え、風船バレーのみでクラブとして存在。

低学年や高齢でもプレイ可能ということで風船バレーを学び、取り入れたが、保護者の要望もあり、そこにダウン症の女兒1名が参加するようになった。障害者の枠を設定したわけではない。

会費は年間 100 円、会場は小学校利用で無料

カ コメント

○参加障害児のプレイを通じての成長が周囲の喜びとなっている。

○障害者スポーツとしてではなく、障害のある人も参加している、という状況。参加を検討中の方がほかに1名。その方の周囲がプレイは無理だと考えているようだが、やってみてほしい。

○健常の小学生とのプレイは難しい。子供は容赦しない。障害に対する配慮がない。

○自治会、婦人会などとも連携して、地域福祉センターなどの取り組みのなかに障害者の参加を広げていけばよいと思う。

○高齢者でも認知症などの方がいる。障害者のスポーツならそういう方も参加できる。

○目標となる大会などを開催してほしい。

○情報の交換が大切。発信を拡大していくべき。

○クラブ理念の中に障害者の参加について明文化されていない。幅広く全員ということでやっているが、文言が入っていればよいと思う。

○風船バレーが始まって1年であり、これからさまざまな気づきがあると思う。

● I 総合型地域スポーツクラブ

ア 日 時 平成 26 年 2 月 24 日 (月) 16:00~17:30

イ 場 所 I 地域福祉センター

ウ 調査員 金山座長・調査部会/荒川、赤木、片岡、山崎

エ 対 応 クラブ会長・カンガルー担当者

オ 概 要 障害児対象の体操クラブカンガルー
月 1 回開催/会員 15 名

総合型地域スポーツクラブのなかで障害児のプログラムを導入したというのではない。

ニーズを背景に、障害児の土日の居場所や運動する場としてカンガルーの活動をおこなってきたが、場所を確保するため、学校を使用できる、

学校開放、総合型地域スポーツクラブに加入した。野球やサッカーのクラブがあるが、カンガルーもその一つ。

福祉関係（障害者スポーツ協会、区障害福祉係長）の職にあった人材を得て定着

総合型地域スポーツクラブの年会費 300 円のみでカンガルーは無料

カ コメント

○エリアでのふれあいのまちづくり協議会や地域ニーズに対応するために立ち上げられた NPO などの活動背景があって、障害児の運動を行うためのクラブが発足し、総合型地域スポーツクラブに参入した。

○運営に大きな資金は必要ないが、用具等初期投資が必要。補助金などを活用した。

○活動には父親の参加やボランティアの確保が重要

○地域福祉センターですら障害者の利用には抵抗感を持つ人が、やはり、いる。

しかし、地域の中には悩みを抱えている障害者がいる家庭がある。

学校やその他の場所でも、周囲から、できない、と決めつけられて阻害されているケースがある。

○本来は、予約なく障害者や高齢者が立ち寄れる居場所を作りたい。

それは学校のなかにあるべきではないかと思うが、総合型地域スポーツクラブのクラブハウスは、その場としてよいのではないか。

○学校利用のなかで、各クラブは優勝を目指し、メダル獲得実績等を背景に利用増を主張しあうが、その中で障害者の活動は強く主張できないものを感じる。

● A 総合型地域スポーツクラブ

ア 日 時 平成 26 年 3 月 1 日（日）10：00～11：30

イ 場 所 A 小学校

総合型地域スポーツクラブ クラブハウス

ウ 調査員 金山座長・調査部会／荒川、片岡、山崎

エ 対 応 クラブ会長・コーチ 2 名

オ 概 要 障害児対象のサッカークラブ

月 1 回開催／会員 20 名

総合型地域スポーツクラブのなかで障害児のプログラムを導入したというのではない。

子弟に知的障害があり、そのニーズを背景に、障害児の土日の居場所や運動する場として発足。

学校を使用できる、学校開放、総合型地域スポーツクラブのサッカー少年団のひとつのグループとして活動していたが、独立し、総合型地域スポーツクラブの一つのクラブになった。

校区以外からの参加者も増えている。

カ コメント

○障害児の家族の要望からスタートしたが、福祉の仕事をしている人やサッカーのコーチングができる人など、たまたま人材が集まった。

○健常児が障害児のサポートできるのはスポーツの利点。

○それぞれ役割分担して運営している。

○父兄は大勢いるが、思いを持った指導者が少ない。

○かかわる人に負担感はないが、一人ではできない。

○今後地域にどう入っていくかを考え、NPO 化なども考えるが、ふみだせない。

○親子一丸となって取り組むセラピーのようなもの。しかし、入れてあげられない子もいる。

○資金面での支援ほしい。用具貸出でもいい。

○3 人のコーチでは 20 人が限界

○クラブ理念に障害への対応は、もととなる記載がある。

● M 総合型地域スポーツクラブ

ア 日 時 平成 26 年 3 月 24 日（月）11：00～12：00

イ 場 所 就労支援事業 B 型事業所内

ウ 調査員 金山座長・調査部会／片岡、山崎

エ 対 応 事業所管理者

オ 概 要 事業所の利用者のグランドゴルフ等で年 1 回程度活動

障害者事業所が利用者の休日の活動充実や健康維持のためにスポーツを導入。活動場所を探すにあたって、障害事業所が地域の一員として認知して迎え入れてもらえるよう、地域の中で活動したいと考え、学校に相談し、総合型地域スポーツクラブに参加した。総合型地域スポーツクラブに参画しての取り組みとしては特殊なケースといえる。

カ コメント

○障害福祉には地域性が薄いといわれるなか、住んでいる場所ではないが、一日の大半を過ごすまちで周辺の住民と交流しながら、理解を得て活動していきたいと考えた。そこで、スポーツクラブに参画し、役員なども引き受けている。今後、スポーツ活動の場を地域の方に見てもらい、徐々に理解を広げていきたい。

ヒアリング調査の考察

総合型地域スポーツクラブに障害者が参加しているモデルタイプは、①障害者のためのプログラムを設けているところ、②障害者のためのプログラムを設けず健常者と一緒にやっているところに大別される。

- N 総合型地域スポーツクラブでは、風船バレーのチームにダウン症児が入っており、障害のない子供と一緒に活動をしている。これは、②のモデルになる。
- I 総合型地域スポーツクラブでは、障害児の子育て支援をベースとした、グループに対する活動を支援している。活動のスペースを求めて総合型地域スポーツクラブに加盟した。これは、①にあたる。
- A 総合型地域スポーツクラブでは、当初サッカーを行うグループ(少年団)の中に、障害のある子どもが会員として、その父親がスタッフとして関わっていたことに端を発し、当初健常児と一緒にサッカーを行っていたが、障害のある参加者が増えたことから、別途グループとして独立している。これは、②のモデルから①に移行したパターンである。
- M 総合型地域スポーツクラブでは、地域の作業所が、土曜日の余暇活動をスムーズに行えるようなスポーツの場を求めて、総合型地域スポーツクラブに加盟している。これも①のモデルである。

クラブ理念

- A クラブのみが障害者への対応として元となる記載があるが、その他のクラブはもっていない。

キーパーソン

- N クラブは放課後児童クラブの支援員が風船バレーの導入に積極的であったこと、I クラブは「ふれあいのまちづくり協議会」の世話人が地域ニーズに配慮して立ち上げた。加えて、前障害者スポーツ協会理事長が支援事業に関与していた。
- A クラブでは、障害児の家族がサッカーチームの運営に携わっており、当事者性を伴って、発展している。また、所属の小学校区を超えて、神戸市内外からの参加者がある。
- M クラブでは、作業所代表者が障害者の余暇活動を重視していたことと、以前から関わりが強かった小学校教諭が、総合型地域スポーツクラブ担当として行政の立場に関わったことをきっかけに、障害者が加盟することとなった。

参加する障害者の立ち位置

- いずれのクラブも、健常者との交流も大切ではあるが、実際には難しいと感じている。障害者自身がスポーツを実施する環境をより大切にしている。I クラブ、M クラブでは健常者との接点は少なく、A クラブも障害児のサッカーチームで独立をしている。

おわりに

- 以上より、いずれも障害者のスポーツ・余暇活動の機会を求めて総合型地域スポーツクラブに加入、発展をしている。スポーツ実施に際して、アクセスに問題を伴う障害者が気軽にスポーツを楽しむためには、居住地近くの小学校区での活動が確保されることが必要になる。総合型地域スポーツクラブへの参加は、その一つである。
- 現段階では、障害者同士をつなぐ機能としてのスポーツ種目の導入、障害の有無を超えて参加できる種目やイベントの導入が重要であり、参加する障害者にとっての、身近な地域での選択肢を増やす必要性が高い。